

添付資料:

1. 2015 年度 研究成果報告書 表紙および目次
2. III. チーム3:新しい映像環境における映画芸術の変容に関する研究チーム
2015 年度 公開上映会およびシンポジウム:「3.11 以後の映像表現」Part 1・2・3 チラシ
3. IV. チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究チーム
公開演劇祭:『Dialog / Dance / Diary 身体とイメージをめぐる演劇祭 in 立教』 チラシ
4. IV. チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究チーム
2015 年度 公開パネルディスカッション第3回:「映像の中の身体ーダンスと映画ー」 チラシ
5. III. チーム3:新しい映像環境における映画芸術の変容に関する研究チーム
2015 年度 公開パネルディスカッション第1・2回:「映像における空間と身体(映画は変身する!)」 チラシ
6. 公開研究成果報告会 チラシ・配布プログラム
7. 2014 年度 研究成果報告書 表紙および目次
8. III. チーム3:新しい映像環境における映画芸術の変容に関する研究チーム
2014 年度 公開講演会:「ヒッチコック映画の空間と精神——ロメール&シャブロール『ヒッチコック』をうけて」 チラシ
9. IV. チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究チーム
2014 年度 公開ワークショップとシンポジウム:『アルバイト・マッピング~労働を考える』 チラシ
10. 2013 年度 研究成果報告書 表紙および目次
11. 2013 年度 研究成果報告会 チラシ
12. IV. チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究チーム
2013 年度 公開国際シンポジウム:『知覚のプラトー』 チラシ
13. IV. チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究チーム
2013 年度 公開上演会&トーク:『音響ドラマ「横断の調べ:福島海岸へ釣りに行った男」及び「Public Address/ パブリックアドレス」』 チラシ
14. IV. チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究チーム
2013 年度 公開講演会と対話:「マギー・マランと現代ダンスの冒険」 チラシ
15. 2012 年度 研究成果報告書 表紙および目次
16. 2012 年度 研究成果報告会 チラシ

17. IV. チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究チーム
2012年度 公開シンポジウム:『ドゥルーズ・知覚・身体』 チラシ
18. IV. チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究チーム
2012年度 公開講演会と対話:『知覚・身体・アート —映像生態学への提言』 チラシ
19. IV. チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究チーム
2012年度 公開上演会&トーク:『病める舞姫』&『踊る身体の行方』 チラシ
20. 2011年度 研究報告書 表紙および目次
21. 2011年度 研究成果報告会 チラシ・配布プログラム
22. IV. チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究チーム
2011年度 公開講演会及びワークショップ:『ダンスとデジタル映像を通じて未知の身体を探求する』 チラシ
23. IV. チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究チーム
2011年度 公開講演会:『ビデオ映像の哲学』 チラシ

文部科学省

私立大学戦略的
研究基盤形成支援事業

研究プロジェクト

「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の
基盤形成」

(平成 23 年度～27 年度)

2015 年度(平成 27 年度) 研究成果報告書

立教大学現代心理学部附属 心理芸術人文学研究所

映像生態学プロジェクト 2015 年度(平成 27 年度)研究成果報告書

目次

チーム1:新しい映像環境がもたらす心理的影響の評価

研究進捗状況報告書	1
1) 事象関連電位を用いた一人称映像と三人称映像に対する注意の測定 芳賀 繁	2
2) 映像生態学とは何か -映像の制作と鑑賞に関する実験的研究およびフィールドワークに基づく理論的考察- 鈴木清重	25
3) 4K超高精細映像の忠実度向上に関する制作技法の開発 佐藤一彦・石山智宏・椿学	42

チーム2:新しい映像環境がもたらす映像体験の臨床的・教育的評価

研究進捗状況報告書	48
1) タブレット端末を用いた安全教育用シリアスゲーム開発 芳賀繁・島崎敢・白井郁男	49

チーム3:新しい映像環境における映画芸術の変容に関する研究

研究進捗状況報告書	63
付録)	
論文「ヒッチコック的 3D —『裏窓』(1954)と『めまい』(1958)における接触と情動」 (in 立教映像身体学研究 第4号, 2016年3月, pp.083-102., 英文要約) 中村秀之	

チーム4:新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究

研究進捗状況報告書	64
-----------	----

付録)

・研究メンバーの関連業績一覧	65
・2015年度研究メンバーリスト	71



A SHINOZAKI MAKOTO FILM
SHARING

2011年3月11日。

地震と津波による大災害は、原子力発電所の爆発をも引き起こし、日本人の心に大きな爪痕を残した。あれから5年。放射性物質の漏れは依然として終息の兆しを見せておらず、私たちの生活は、あの時の不安を拭えないまま続いている。本作『SHARING』（共有の意）は、そうした震災後の日本人の心の問題に、映画的な想像力を駆使して、真正面から向き合おうとしたフィクションである。

なお、この映画には、登場人物の一部、展開も大きく異なる2つのヴァージョン（99分版と111分版）が存在している。どちらが一方がディレクターズカットではなく、劇中で語られる分身（ドッペルゲンガー）のように、この2つのヴァージョンがお互いを照らし、未来に対する希望と怖れを炙り出していく。

（*今回立教で上映されるのは99分のショート・ヴァージョンのみ）



本当に傑作だった。迷宮のような建築物、ぞくぞくと登場する人間たち。そして現世を超えた物語、その圧倒的なスケールの大きさに身震いした、大胆で繊細で、充分スキャンダラスで、ラストは感動的で。堂々たる社会派ダークファンタジーの登場だ！

黒沢 清（映画監督）

311後の世界を生きる私たちの不安や困惑を、これほど鮮烈に、重層的に、そして映画的に描いた作品があったでしょうか。特にロングバージョンには戦慄させられました。実に怖い映画です。

想田和弘（映画作家）

人間の顔を凝視する執拗な持続と、世界の表情の変化をすかさず無造作に切りとるようなカメラワークとが、異様なテンションで絡み合う傑作です。本作には2つのヴァージョンがありますが、ほぼ同じ物語を語りながら、印象がこれほど異なっているのは、作者・篠崎誠の内心が、その両極の間で深く引き裂かれているからでしょう。

中条省平（映画評論家）

フィクションであれノンフィクションであれ、東日本大震災を扱ったすぐれた作品は数多く存在するが、このような例を他に知らない。しかし、考えてみれば、あの震災後の混沌を感傷に溺れることなく構造的に捉えようとするなら、ホラーという形式はまさに「コロンブス」の卵ではなかったか。私たちが生きるのは「震災後の世界」ではない。私たちは震災と震災との間、すなわち「災間」を生きる。原発事故によって“確率化”された生を生きる。その意味で本作は、災間の時間に刻印された、消えることのない映像の記念碑である。

斎藤 環（精神科医）

傑作であることに間違いはないです。予知夢、分身、更には神。登場人物それぞれの現実と夢と回想が、次から次へと容赦なく視界に入り込んできます。学園という絶好の場所を武器に。我々はただ見ているしか、なす術がありません。それで良いのだと思います。まさしく、映画がここにあります。早く一般公開されることを期待します。必見です。

匿名希望（広告代理店勤務）



震災後、私たちが体験しているこの世界とは…。

社会心理学者の瑛子（山田キヌヲ）は、東日本大震災の予知夢を見た人を調査している。誰にも打ち明けていなかったが、彼女は震災で死んだ恋人の夢をずっと見続けていた。一方、同じ大学の演劇学科に通う薫（樋井明日香）は、卒業公演の稽古に追われている。ある時、311をテーマにしたその公演を巡って、仲間たちと決定的に衝突してしまう。薫もまた、この芝居を初めてから同じ夢にうなされていたのだが…。

とにかく驚嘆のひと言につきます。圧巻でした。間違いなくここ数年観た日本映画の中でベスト3に入る大傑作だと思います。映画の新しい地平を見せられた気がします。背筋が伸びました。10代の頃、どんな映画を観ても面白く感じ、いちいち鳥肌たててスゲーとか思ってた感覚を久々に味わいました。

緒方 明（映画監督）

3.11を、離れた場所に居る者も、当事者のように、考えていいのか、受け入れることができるのか、という、ずっと胸の内でチクチク痛んできた疑問符を、共に考える映画でもあった。

大嶺洋子（編集者）

立教大学現代心理学部付属 心理芸術人文学研究所の研究プロジェクトにおけるチーム3Aの研究テーマである「映画（2D）の興行きの表現」から生まれた『SHARING』（ショートヴァージョン）の上映を中心に、国内外で活躍する映画監督たちを招き、彼らの映画の上映と共にパネルディスカッションを行って、映画と演劇、身体と演技、映画の中の空間と時間表現などについて、またそれらが3・11を経て今どのように変容しつつあるのか議論を深める。なお、この研究成果報告会は「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成23年～27年）」における「映像生態学的研究」プロジェクトの一環として行うものである。

日時	2016年2月26日(金)
場所	立教大学新座キャンパス 6号館3階 N636教室(ロフト2)
講師	想田和弘氏(映画作家) 深田晃司氏(映画監督)
司会	篠崎 誠(現代心理学部映像身体学科教授、映画監督)
内容	「3.11以後の映像表現」PART 1 13:00～『さようなら』(112分) 15:00～『SHARING』(ショート・ヴァージョン 99分) 17:00～鼎談 想田和弘氏、深田晃司氏、篠崎 誠

日時	2016年2月29日(月)
場所	立教大学新座キャンパス 6号館2階 N623教室(ロフト1)
講師	是枝裕和(映画監督、早稲田大学理工学術院教授)
司会	篠崎 誠(現代心理学部映像身体学科教授、映画監督)
内容	「3.11以後の映像表現」PART 2 16:00～『SHARING』(ショート・ヴァージョン 99分) 18:00～対談 是枝裕和氏、篠崎 誠

日時	2016年3月4日(金)
場所	立教大学新座キャンパス 6号館2階 N623教室(ロフト1)
講師	黒沢 清氏(映画監督、東京藝術大学大学院教授) 相田冬二氏(ライター、ノベライザー)
司会	篠崎 誠(現代心理学部映像身体学科教授、映画監督)
内容	「3.11以後の映像表現」PART 3 16:00～『粹』『記憶』(合計30分)+『SHARING』(99分) 18:30～鼎談 黒沢 清氏、相田冬二氏、篠崎 誠

主催：心理芸術人文学研究所 共催：現代心理学部
入場料 無料 事前申し込み不要 定員 176名

観ている間次々に僕自身の経験や忘れていた記憶が沢山反芻されてきて、どこまでが劇中の事でどこまでが自分の思考だったのかが分からないという初めての体験をしました。ぜひまた観てよく考えたいです！

飯塚貴士（人形映画監督）

篠崎誠監督最新作『SHARING』は前作『あれから』に続き震災にまつわる作品だが今回は震災後のヒトの心にフォーカスし映画的にも「仕掛けて」いた。もはや世界がホラー化した故に敢えて観る者を動揺、困惑、怒りさえさせるかも知れぬ。本来映画は揺さぶりをかけるメディアでもあるのだ、と。

川瀬陽太（俳優）

2014 Canada
Vancouver International
Film Festival

2014 Korea
Pusan International
Film Festival

2014 Japan
Tokyo FILMeX

2015 Iran
Fajr International
Film Festival

2015 Japan
Fukui Film Festival

2015 Germany
Nippon Connection

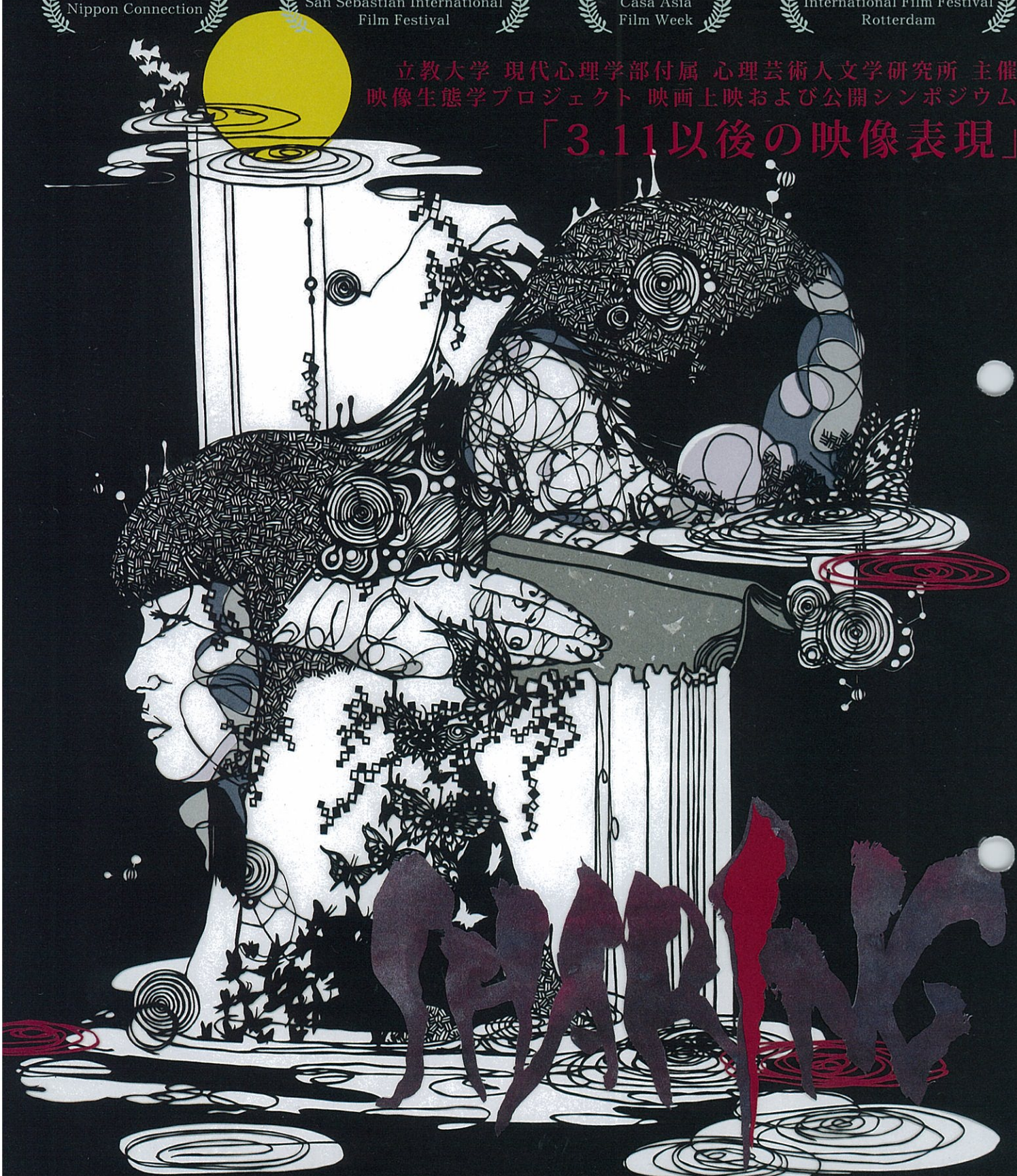
2015 Spain
San Sebastian International
Film Festival

2015 Spain
Casa Asia
Film Week

2016 Holland
International Film Festival
Rotterdam

立教大学 現代心理学部附属 心理芸術人文学研究所 主催
映像生態学プロジェクト 映画上映および公開シンポジウム

「3.11以後の映像表現」



COMTEG presents in association with OFFICE KITANO

Starring YAMADA Kinuo HINOI Asuka KAWAMURA Tatsuya KIMURA Tomoki

Also starring KOBAYASHI Yuto KIGUCHI Kenta SUZUKI Kazuki SHIMIZU Hazuki MISAKA Chieko
MATSUSHITA Hitomi YAZAKI Hatsune NONAKA Hisano NONAKA Yoshino With SUZUKI Takuji HYODOH Kumi

Introducing TAKAHASHI Ryudai YOSHIOKA Sara TAKAHASHI Rui NIITSU Chise

Producer ICHIYAMA Shozo Screenplay SAKAI Zenzo Music NAGASHIMA Hiroyuki Cinematographer AKIYAMA Yuki

Sound DODO Yasuyuki & HIRAI Shogo Editor IZUMI Yoko Special effects director TAGUCHI Kiyotaka

Prop&Decoration MIYAZAKI Keisuke Lighting for the play MATSUO Hajime

Make-up artist OUKOUCHI Tomomi Costume NAKAJIMA Miki Casting HIGASHIHIRA Nana

Written & Directed by SHINOZAKI Makoto

This film was supported by MEXT-Supported Program for the Strategic Research Foundation at Private Universities, 2011-2015.

©SHINOZAKI Makoto / COMTEG

DIALOG

DANCE

DIARY

身体と
イメージをめぐる
演劇祭 in 立教

松田正隆

高山明

チヨン・ヨンドウ

2015年12月5日(土) 13:00 - 19:00

立教大学新座キャンパス(6号館、スタジオ棟)にて

立教大学現代心理学部附属心理芸術人文学研究所 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究プロジェクト
「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」(平成23年度~27年度)

国内外の舞台芸術シーンの第一線で活躍する3名のアーティストが、立教大学のnew campusで1日限りの演劇祭をひらきます。「Dialog/Dance/Diary」をテーマに、対話をモチーフにした映像作品に取り組む松田正隆、外国人労働者をリサーチする高山明、そしてダンスと言語の関係を探るチョン・ヨンドゥが作品を発表いたします。身体とイメージをめぐる1日をお楽しみください。

ジャンヌの声「映像」

日時.. 2015年12月5日(土)

13時~19時【無料・予約不要】

会場.. スタジオ棟

企画・脚本.. 松田正隆

監督.. 遠藤幹大 助監督.. 寺内七瀬

出演.. 樋口恋、小松曜、米倉若葉、松村珠美

制作.. 株式会社コトプロダクション

バベル—都市とその塔「映像+朗読」

日時.. 2015年12月5日(土)

映像.. 13時~19時

朗読.. 15時30分/18時30分(予定)

【無料・予約不要】

会場.. 新座キャンパス6号館

N636教室(ロフト2)

構成・演出.. 高山明

撮影.. 宇賀神雅裕 録音.. 藤口諒太

制作.. 特定非営利活動法人芸術公社

言語の霧「ダンス」

日時.. 2015年12月5日(土)

14時/17時【無料・予約不要】

会場.. 新座キャンパス6号館

N623教室(ロフト1)

振付・演出.. チョン・ヨンドゥ

出演.. ハミラ、花島令、ソ・ウンギョン、谷川清美

チョン・ヨンドゥ

立教大学現代心理学部映像身体学科特任准教授。2006年、ダンスマガジンにて舞踊芸術賞受賞。05年、韓国文化芸術振興基金により新人芸術家海外研修(フランス)、04年、横浜ダンスコレクションにてソロ・デュオコンペティション「横浜文化財団大賞」、「駐日フランス大使館特別賞」を受賞。

高山明

立教大学現代心理学部映像身体学科特任准教授。1969年生まれ。演劇ユニットPort B代表。「フェスティバル/トーキョー」での制作を日本での活動の中心にしてきたが、ヘッベル・アム・ウーファー劇場(ベルリン)やムーゾントゥルム劇場(フランクフルト)、オナーシス文化センター(アテネ)や台南および台北芸術大学など、海外での作品制作も積極的に行っている。演劇にとどまらず、美術の分野からの招聘も多数。

松田正隆

立教大学現代心理学部映像身体学科教授。1962年長崎県生まれ。96年『海と日傘』で岸田國士戯曲賞、97年『月の岬』で読売演劇大賞作品賞、98年『夏の砂の上』で読売文学賞受賞。2003年より演劇の可能性を模索する集団「マレビトの会」を結成。主な作品に『HIROSHI MA-HAPCHEON: 二つの都市をめぐる展覧会』(10)、『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』(12)、『長崎を上演する』(15)などがある。マレビトの会代表。

トークセッションを開催! 各公演・上映の合間に、各アーティスト+ゲストが登壇するトークセッションを実施いたします。スケジュールの詳細はFacebookページをご覧ください。

会場: 立教大学新座キャンパス 〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26



志木駅下車

徒歩約15分

路線バス(西武バス) 約10分

志木駅南口2番バス乗り場より「清瀬駅北口行き」または「所沢駅東口行き」、立教前下車

スクールバス 約7分

志木駅南口「松屋」前専用バス停(運行時間12:30~19:00、運賃無料)

新座駅下車

徒歩約25分

路線バス(西武バス) 約10分

新座駅南口1番バス乗り場より「志木駅南口行き(北野入口経由)」、立教前下車

スクールバス 約10分

新座駅南口3番バス乗り場より[路線バスと兼用バス停](運行時間7:30~20:00、運賃無料)

Dialog / Dance / Diary —身体とイメージをめぐる演劇祭 in 立教—

<https://www.facebook.com/RikkyoTheaterFes> @RikkyoTheatFes お問い合わせ: 048-471-7154 (心理芸術人文学研究所)

主催: 心理芸術人文学研究所 共催: 現代心理学部 企画: 松田正隆 アシスタント: 中村みなみ コーディネート・宣伝美術: voids

本演劇祭は、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」における『新しい映像環境をめぐる映像生態学研究的基盤形成』プロジェクト(平成23年度~27年度)一環として行われるものである。